

標 題 : Dietary unsaponifiable fraction from extra virgin olive oil supplementation attenuates acute ulcerative colitis in mice.  
エクストラバージンオリーブ油由来の不ケン化物の食事補給は  
マウスで急性潰瘍性大腸炎を軽減する

---

著 者 : S. Sánchez-Fidalgo, et al. (スペイン セビリア大学 薬学部 薬理学科)

---

掲 載 誌 : Eur J Pharm Sci. 2013 Feb 14; 48(3): 572-81.

---

要 旨 :

エクストラバージンオリーブ油(EVOO)は、マウスの実験的潰瘍性大腸炎(UC)で免疫調節および抗炎症の特性を実証した。

その高い一価不飽和脂肪酸含量に加えて、不ケン化物(UF)に存在する微量だが高い生物活性の成分の、好ましい特性に関する証拠が集まってきた。

本研究は、急性潰瘍性大腸炎に対するエクストラバージンオリーブ油の食事性補給の影響を評価するように計画した。

C57BL/6 マウスにヒマワリ油、エクストラバージンオリーブ油食事、および不ケン化物強化ヒマワリ油を、油脂 5%で離乳から給餌した。

30 日後に、マウスを 3%デキストラン硫酸ナトリウム(DSS)に 5 日間さらして急性大腸炎を発症させた。

DSS 除去の 4 日後に動物を犠牲にして、結腸を組織学および生物学的に処理した。

疾患活動性指数および顕微鏡損傷スコアはヒマワリ油群と比較して、エクストラバージンオリーブ油およびヒマワリ油+不ケン化物の食事群で有意に改善した。

さらに両方の食事処置は、結腸粘膜における MCP-1 と TNF- $\alpha$  の値、iNOS と COX-2 の過剰発現および p38 MAPK 活性化の低下を誘導した。

その上 I $\kappa$ B のアップレギュレーションも、両方の食事の動物への給餌後に観察された。

しかし、エクストラバージンオリーブ油または不ケン化物+ヒマワリ油を給餌したマウスからのデータの間に統計的な有意差は観察されなかった。

エクストラバージンオリーブ油の不ケン化物による食事強化は急性潰瘍性大腸炎モデルで損傷を減らし、多分 p38 MAPK と NF $\kappa$ B 信号伝達経路を經由して酸化事象を軽減し炎症促進性タンパク質の発現を基礎値に戻す。

エクストラバージンオリーブ油の不ケン化物の食事は、潰瘍性大腸炎予防のための食事補給における新しい戦略に対する根拠を提供する可能性がある。

キーワード : 不ケン化物、エクストラバージンオリーブ油、iNOS、COX-2、MAPK、I $\kappa$ B

著作権© 2012 年 Elsevier B.V. 著作権所有。

---